

おたに やすこ

大谷 康子 / ヴァイオリン

2021年にデビュー46周年を迎え、人気・実力ともに日本を代表するヴァイオリニスト。華のあるステージ、深く温かい演奏で聴衆に感動と喜びを届けており「歌うヴァイオリン」と評される。東京藝術大学、同大学院博士課程修了。在学中よりソロ活動を始め、ウィーン、ローマ、ケルン、ベルリンなどでのリサイタル、トロント音楽祭、ザルツブルク市などに招待され好評を得る。スロヴァキア・フィル、シュトゥットガルト室内楽団など国内外の著名なオーケストラとも多数共演。また、1公演で4曲のヴァイオリン協奏曲を1日2公演行うという前代未聞の快挙を達成し話題となった。

2017年はウィーンのムジークフェラインでリサイタルを開催。夏にはロシアの名門モスクワ・フィルの日本ツアーにソリストとして出演し絶賛を博した。キエフ国立フィルとは2017年以降毎年招聘され、2022年9月にも共演を予定。また、2019年5月に実力派ピアニストのイタマール・ゴランと全国ツアー（12都市）を開催。最新CDはイタマール・ゴランとのフランスのエスプリ薫る珠玉の名曲集。CDは他に、ベストセラー「椿姫ファンタジー」（SONY）や、ベルリンでの録音による「R.シュトラウス/ベートーヴェン・ソナタNo.5（ピアノ：イタマール・ゴラン）」（SONY）も評価が高い。その他多数リリース。著書に「ヴァイオリニスト今日も走る!」（KADOKAWA）がある。BSテレビ東京（毎週土曜朝8時より放送）「おんがく交差点」では春風亭小朝と司会・演奏を務め、八面六臂の活躍をしている。文化庁「芸術祭大賞」受賞。東京音楽大学教授。東京藝術大学講師。（公財）練馬区文化振興協会理事長。川崎市市民文化大使。高知県観光大使。（公財）日本交響楽振興財団理事。（公社）日本演奏連盟理事。使用楽器は日本音楽財団保有ストラディヴァリウス1725年製ヴァイオリン「ウィルヘルミ」。

公式ウェブサイト ▶ <https://www.yasukoohtani.com>

✿使用楽器について✿



ストラディヴァリウス1725年製ヴァイオリン「ウィルヘルミ」

1866年以降、約30年間この楽器を所有していたドイツの著名なヴァイオリン奏者、アウグスト・ウィルヘルミ（1845～1908）に因んでこの名前が付けられた。ウィルヘルミの所有していた数多くのヴァイオリンのうち最も愛用されていた楽器だったが、「演奏者としてベストなうちに引退したい」との理由で、50代の若さで楽器を手放したという。日本音楽財団は2001年6月にこの楽器を購入した。

日本音楽財団はアントニオ・ストラディヴァリ（1644～1737）の他、グアルネリ・デリ・ジェス（1698～1744）によって製作された弦楽器の名器を保有している。それらは国籍を問わず無償で演奏家に貸し出しされ、演奏活動に役立てられている。

日本音楽財団ウェブサイト ▶ <https://www.nmf.or.jp/>

まつもと かずまさ

松本 和将 / ピアノ



幼い頃よりピアノに目覚め、高校在学中に「ホロヴィッツ国際ピアノコンクール」第3位など、国内外のコンクールで上位入賞。1998年19歳で「第67回日本音楽コンクール」優勝。併せて増沢賞はじめ、全賞を受賞。2001年プゾーニ国際ピアノコンクール第4位、2003年エリザベト王妃国際音楽コンクール第5位入賞。

これまでにプラハ交響楽団、プラハフィル、ベルギー国立オーケストラ、読売日響、日本フィル、新日本フィル、東京交響楽団、東京フィルなど、多くのオーケストラと共演。2009年から3年連続のオールショパンプログラム全国ツアーを行い、2016年より「松本和将の世界音楽遺産」と名付けたリサイタルシリーズを開始。

室内楽にも積極的に取り組み、イザベル・ファウスト、前橋汀子、宮本文昭など多くの名演奏家と共演。2010年より上里はな子、向井航とピアノトリオを結成し、2012年には東京、京都、広島を始めとする6都市で全国ツアーを行い、2016年には京都フィルとベートーヴェンの三重協奏曲を共演。

これまでに2枚のレコード芸術特選盤（「展覧会の絵」「後期ロマン派名曲集」）を含む21枚のCDをリリース。100年以上前にカーネギーホールなどで数々の歴史的巨匠に弾かれたニューヨーク・スタインウェイの銘器、[CD368]の底なしの響きを引き出した「展覧会の絵～松本和将ライブシリーズ7」はレコード芸術特選盤に選ばれ高く評価される。2009年よりコンサートでの臨場感をそのまま録音するシリーズを始める。

名古屋音大ピアノ演奏家コース客員准教授として、後進の指導にもあたっている。

公式ウェブサイト ▶ <http://www.kaz-matsumoto.com/top.php>



©尾形正茂

次世代育成事業 とっとり地域創造ステージ

せいしょうねん 青少年のための ヴァイオリン コンサート



2021年

11月18日(木) 14:00開演
大栄農村環境改善センター

11月19日(金) 13:30開演
日南町総合文化センター さつきホール

主催 公益財団法人日本音楽財団
公益財団法人鳥取県文化振興財団
共催 北栄町、琴浦町、日南町
北栄町教育委員会、琴浦町教育委員会
日南町教育委員会
助成 公益財団法人日本財団
出演 大谷 康子（ヴァイオリン）
松本 和将（ピアノ）



日本音楽財団
NIPPON MUSIC FOUNDATION



プログラム

ゴセック	ガヴォット
ベートーヴェン	メヌエット
サン＝サーンス	<small>はくちょう</small> 白鳥
クライスラー	<small>うつく</small> 美しきロスマリン
ベートーヴェン	エリーゼのために
モーツァルト	アイネクライネナハトムジーク <small>だい がくしょう</small> 第1楽章
ブラームス	<small>ふきよく だい ばん</small> ハンガリー舞曲第5番
サラサーテ	ツイゴイネルワイゼン

サン＝サーンス：白鳥

みなさんは白鳥を見たことがありますか？ 湖の水面をゆったりと泳ぐ、まっ白で優雅なその姿を、音楽で表したのがこの曲です。これはフランスの作曲家カミーユ・サン＝サーンス（1835～1921）が書いた14曲からできた組曲「動物の謝肉祭」という作品のなかの1曲です。組曲のなかには他にも亀や象やカンガルーやカッコウなど、いろいろな動物が登場します（中には「ピアニスト」も入っています！）。「白鳥」は組曲のなかではもっとも有名で、チェロの名曲としても知られています。

クライスラー：美しきロスマリン

この曲はフリッツ・クライスラー（1875～1962）というヴァイオリンの名手が作った、ヴァイオリンとピアノのための作品です。チャーミングなメロディーが印象的で、短けれど、名曲として広く愛されています。ところで、ロスマリンとは何かというと、ハーブとして有名なローズマリーのことです。お料理に使うと、とても芳しく、おしゃれな雰囲気になりますね。「海のしずく」という意味の植物名なのですが、クライスラーは花のように美しいだけかのことを思って作曲したのかもしれませんが。

ベートーヴェン：エリーゼのために

さきほどの「メヌエット」でも登場したベートーヴェンの作品です。ベートーヴェンといえば、「ジャジャジャ・ジャーン！」で始まる有名な「運命交響曲」や、年末になるとオーケストラと大合唱で演奏される「第九」のように、立派なオーケストラ曲を作った人ですが、先ほどの「メヌエット」も、この「エリーゼのために」も、とてもデリケートで美しい作品ですね。ベートーヴェンには繊細で心優しい一面があったのです。さて、この曲を捧げた「エリーゼ」という人は、ベートーヴェンが仲良くしていた女性です。本当は「テレゼ」さんという人でしたが、ベートーヴェンの書いた字が汚くて（！）「エリーゼ」と間違えて読まれてしまったことから、この曲名で知られるようになりました。

モーツァルト：アイネクライネナハトムジーク第1楽章

おそらくどこかで聴いたことのある人も多いのではないのでしょうか。この有名な曲のタイトル「アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク」とは、ドイツ語で「小さな夜の音楽」という意味です。音楽家たちが夜にちょっといい気分楽しく合奏する、そんな雰囲気の曲ですね。作曲者は、オーストリアの音楽の都ウィーンで活躍したウォルフガング・アマデウス・モーツァルト（1756～1791）です。モーツァルトは小さなころから周りの大人たちをびっくりさせるほど素敵な音楽を作り、「神童」と呼ばれました。この曲は大人になってから作ったものですが、いつまでも子どものような心を持ったモーツァルトの、ほがらかな響きの作品です。

ブラームス：ハンガリー舞曲第5番

「ハンガリー舞曲」とありますが、この曲を作ったのはドイツの作曲家ヨハネス・ブラームス（1833～1897）です。彼がハンガリー人のヴァイオリニストの友達といっしょに演奏旅行に出かけたとき、とても魅力的な音楽をその友達が奏でました。それはロマ族という人々の間で古くから伝わる民謡でした。ブラームスはそのメロディーからインスピレーションを受けて、「ハンガリー舞曲集」というピアノ連弾のための曲を作りました。「第5番」はとくに人気があり、ピアノだけでなくさまざまな楽器で演奏されるようになりました。

サラサーテ：ツイゴイネルワイゼン

この曲もロマ族の人たちの音楽と関係があります。タイトルの「ツイゴイネルワイゼン」とは、「ロマ族のうた」といった意味の言葉です。ロマの人々は、ヨーロッパを移動しながら生活する民族です。情熱的でちょっと悲しみのある彼らの音楽は、ヨーロッパの音楽家たちに大きな影響を与えました。この曲を作ったパブロ・デ・サラサーテ（1844～1908）はスペイン人の天才的なヴァイオリニストです。タイトルどおり、ロマのメロディーの要素をたっぷり取り入れて、ゆったりした部分と速く激しい部分があり、メリハリのあるはなやかな音楽に仕上げました。もともとはヴァイオリンとオーケストラのために作られた曲です。

がっきよくかいせつ 楽 曲 解 説

文：飯田有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

ゴセック：ガヴォット

明るくかわいらしいこの曲は、フランソワ＝ジョセフ・ゴセック（1734～1829）というフランスの音楽家が作ったものです。ゴセックが自分の作ったオペラ（歌を中心にして進んでいく劇）のなかで使ったメロディーを、あとからヴァイオリンとオーケストラで演奏できるように書きかえたものです。今ではピアノやその他の楽器でもよく演奏されています。「ガヴォット」とは、フランスに古くから伝わる踊りの音楽のことです。

ベートーヴェン：メヌエット

「メヌエット」も、もともとは踊りの音楽の一種です。フランスのお金持ちの貴族たちが好んで踊った、ちょっと上品な踊りです。1、2、3、1、2、3……という3拍子が続いていきます。ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1827）が作曲したメヌエットは、もともとは6曲セットで書かれたものです。なかでもこの曲がとても有名で「ト長のメヌエット」とも呼ばれます。おもわず体を揺らしたくなるような、美しいメロディーが聞こえてきます。